

地域における 障害者自立支援機器の普及促進の取組事例

名古屋市 なごや福祉用具プラザの取組

社会福祉法人
名古屋市総合リハビリテーション事業団
なごや福祉用具プラザ

1. 地域の概況と取組の経緯

【概況】

日本のほぼ中央に広がる濃尾平野にあり、愛知県西部に位置する政令指定都市である。また、自動車、工作機械、航空宇宙産業など世界的なものづくり産業があつまる中部地域の中心都市である。

【人口】 2,302,696人（平成28年6月1日現在）

【面積】 326.45km²

【障害児・者の人数】（平成27年3月31日現在）

身体障害者数：78,606人 / 知的障害者数：15,565人

精神障害者数：19,962人 / 障害児数：6,170人

（平成25年3月31日現在）

【教育機関】 市立特別支援学校：5校（分校1校含む）

県立盲学校：1校 / 県立聾学校：2校

県立特別支援学校：2校

【取組の経緯】

平成9年7月に名古屋市が介護実習・普及センターとして設置し、当事業団が運営。福祉用具の展示・相談、研修以外にも、工房を設置し、福祉用具の製作改造や技術ボランティアの育成、活動の場を持つなど、当初からテクノエイド機能をもつ相談機関であった。

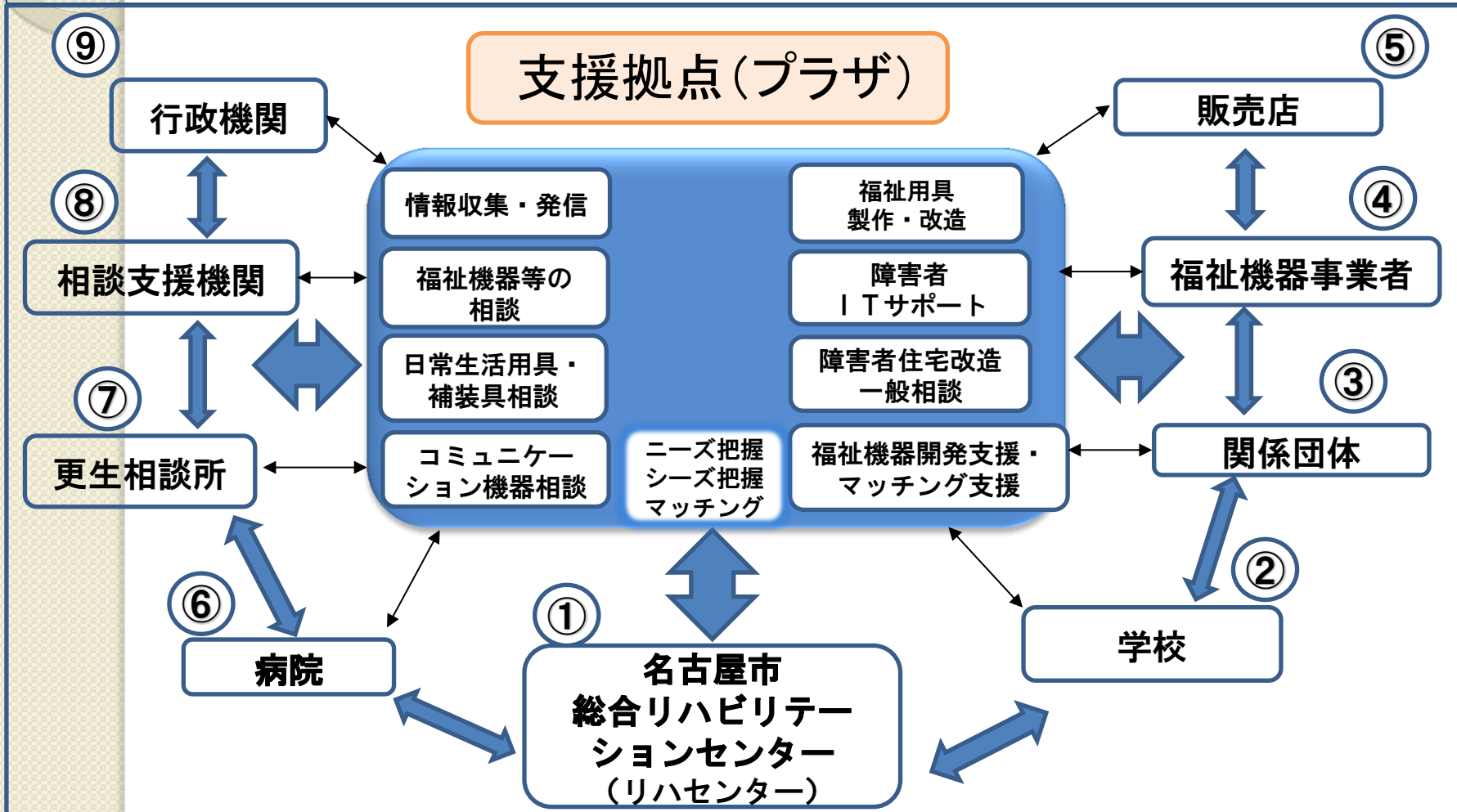
また、平成12年に高齢者住宅改修相談、家族介護者教室、平成17年には障害者ITサポート事業を受託し、福祉用具と住宅改修に関する総合的な相談支援機関として事業を展開している。



なごや福祉用具プラザ

2. 支援体制 ～全体像～

なごや福祉用具プラザは、主に名古屋市域において、障害者・高齢者に対する福祉用具の製作・改造、IT支援、住宅改修等の相談支援を行う。併せて、中間支援者の教育的役割を持ち、研修や技術支援ネットワークづくり、ボランティアの育成・活動等を支援する。また、企業の支援機器開発の支援も行う。



関係機関との連携内容

関係機関

主な関係

- ①リハセンター
 - ・入院、入所者への支援
 - ・リハセンターのセラピスト、義肢装具士との協働
 - ・外来患者等への支援に際し、リハセンター内外の機関との協働支援を分担
- ②学校
 - ・小牧、一宮市特別支援学校及び名古屋市内の特別支援学級や普通学級への支援
 - ・卒後対策連絡協議会メンバー
 - ・暮らし展の協力
 - ・東海特別支援教育カンファレンスの実施
 - ・ロボットモニター貸出し
- ③関係団体
 - ・障害者支援施設（入所支援、自立訓練）及び高齢者施設の利用者及び職員への支援
- ④福祉機器事業者
 - ・開発相談及び開発機器のデモ
 - ・大規模展示での展示協力
 - ・モデルルーム福祉用具、介護ロボット実証評価貸出し
 - ・自主講座でのスキルアップ対応
 - ・開発メーカーの施設見学等のコーディネート
 - ・研修室の貸出し
- ⑤販売店
 - ・福祉用具の選定・適合(貸し出しを含む)及び、製作改造で協力
 - ・自主講座でのスキルアップ対応
 - ・（仲介者として）用具の貸出し
 - ・遠隔地居住者への協働対応
- ⑥病院
 - ・ALS患者に関するコミュニケーション機器（意思伝達装置）の導入に関しては紹介を受ける
 - ・退院前福祉用具相談
 - ・退院前住宅相談
- ⑦更生相談所
 - ・重度障害者コミュニケーション機器の導入支援の協働
- ⑧相談支援機関
 - ・相談支援機関の利用者支援を協働。スイッチ選定・適合、座位姿勢、製作改造等に関して実施（場合によっては訪問相談を行っていることも周知）
- ⑨行政機関
 - ・更生相談所と協働し、補装具等研修会を開催
 - ・自主講座（自助具製作講座やITボランティア講座）を広報

3. なごや福祉用具プラザの概要

【プラザ概況】

展示数	面積	構成職員
1,247点 (H28.3.31現在)	1,073m ²	ソーシャルワーカー2名 リハビリテーション工学技師1名 作業療法士1名 看護師1名※ 相談員 社会福祉士2名、建築士2名 作業療法士1名※ 福祉用具プランナー1名 福祉用具専門相談員1名 IT相談員1名



モデル住宅



非常勤

※福祉用具プランナー資格あり

【特色】

- セラピスト、リハ工学技師、ソーシャルワーカーを常勤配置し、疾患の予後、本人の能力や住環境を考慮した専門的な相談を受けられる。
- 常時1,000点を越える展示品を揃えており、モデル住宅や浴室シミュレーションコーナーなど、生活の中で用具を使うイメージを持ちやすい展示場づくりをしている。
- 障害者のIT支援では、コミュニケーション機器を中心に訪問相談、パソコン勉強会等を行っており、更生相談所の意思伝達装置の訪問相談にも協力している。
- リハセンターの地域支援部門であるため、必要に応じ相談部門、病院部門等と連携した支援を行うことができる。

4. なごや福祉用具プラザの機能（1）

①日常生活動作への支援

作業療法士(OT)やリハビリテーション工学技師(RE)、ソーシャルワーカー(SW)、看護師(Ns)、相談員が移動・移乗や入浴など本人に合う日常生活動作への支援をシミュレーションコーナーやモデル住宅にて行う。

②福祉用具の利活用への支援

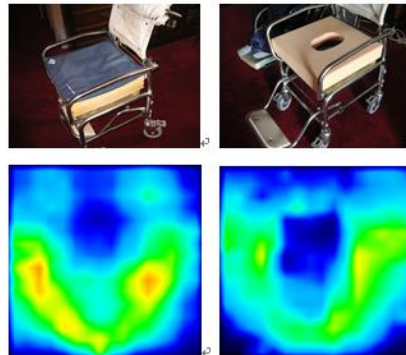
OT,REが身体活動の状況に合わせた福祉用具の選定・調整と、姿勢や住環境を加味した指導を行い、計測機器を用いてその効果を提示する。必要に応じ一定期間貸与し、その試用による導入確認を行う。

③福祉用具の製作・改造、IT支援

REが既製品では対応できない本人へ残存能力を生かし、自立度を高めるための福祉用具を製作改造によって提案する。またRE,IT相談員が本人の身体状況・生活環境を把握し、パソコンやタブレット端末を使うためのアプリやその設定、周辺機器の利活用について提案し、状況に応じて訪問支援する。



移乗方法についての
支援者への指導



クッションによる座圧分布
の差異の提示と指導



3Dプリンタで製作した
パソコン用入力スイッチ

4. なごや福祉用具プラザの機能（2）

④企業等への支援

OT,RE,SW,Ns,相談員が企業等のシーズと、障害者・高齢者のニーズを把握し、福祉用具や関連する製品開発の助言・技術的支援を行う。

⑤訪問による補装具（意思伝達装置）の支援

REが更生相談所等と連携し、意思伝達装置に関する訪問相談、スイッチ選定・適合支援を行う。

⑥福祉用具に関する教育・研修

OT,RE,SW,Ns,相談員が支援者、医療・福祉専門職、特別支援学校教員、建築士等を対象に、自立支援となる福祉用具の利活用について学ぶための研修を行う。

⑦技術ボランティアネットワークの構築

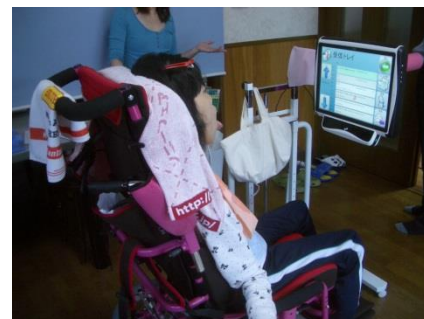
RE,SWが愛知県内の技術ボランティアへ福祉用具の製作改造に関する相談や情報を持ち寄るネットワークを構築し運営を行う。



開発機器への意見交換



シミュレーションコーナーでの福祉用具に関する教育場面



訪問相談による視線入力装置の選定・適合評価

4. なごや福祉用具プラザの機能（3）

⑧リサイクル事業の運営

なごや福祉用具プラザが福祉用具の選定・適合評価後のリサイクル・リユースを含めたシステムを、なごや福祉用具普及協議会へ委託して運営し、来館者へのワンストップサービスを行う。

⑨福祉用具・介護ロボットへの取り組み

OT,RE,SWが医療・福祉専門職、エンジニア等を対象に、リハセンターと共に福祉用具・介護ロボットの利活用について学ぶための研修を行う。

⑩エンドユーザへのコーディネート機能

OT,RE,SW,Ns,相談員が支援を必要とする本人を適切に地域資源へつなげ、切れ目のない支援を継続できるようにコーディネートする。



リサイクル部門



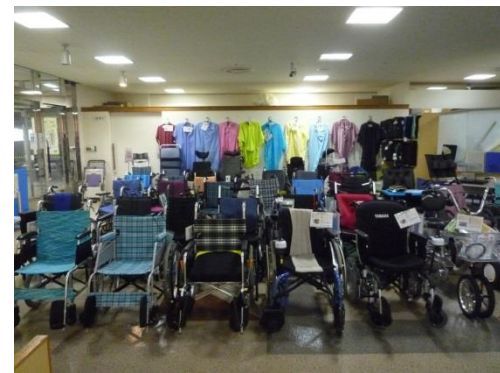
介護ロボット体験会

5. 設備・展示品

種目	数	種目	数
【特殊寝台】	6	【入浴補助用具】バスリフト、浴槽台、バスボード、浴槽用手すり、水回り用車椅子、シャワーベンチ等	73
【マットレス、褥瘡予防マット】	43	【コミュニケーション用具】	74
【体位交換器】	20	【呼び出し装置、離床センサー】	24
【手すり】	45	【視覚補助用具】	72
【歩行補助用具】杖、歩行車、歩行器	108	【衣類、靴】	133
【排泄補助用具】ポータブルトイレ、尿器、オムツ	154	【住宅設備】コンロ、床材等	56
【車椅子、車椅子クッション、車椅子附属品】	116	【家具】机、いす等	40
【段差解消機】	26	【その他】ストマー等	24
【移乗用リフト、移乗用吊り具、移乗補助用具】	64		
【自助具】	169		
		合計 1,247点 (平成28年3月31日現在)	

【機器の入手・更新方法】

○新製品展示と常設品展示があり、メーカー・販売店等からの申請に基づき審査を行う。新製品は毎月プラザ内で審査し、常設品については、年2回開催する展示用具選定協議会にて外部委員による審査を経て展示を決定する。なお、展示品は無償提供である。



【なごや福祉用具プラザ展示場】

6. 取組による効果（1）

1. アウトリーチ支援

特別支援学校における支援機器相談会の開催（年6回開催）、障害者のくらし展（年1回出展）、特別支援学級、障害者支援施設（入所支援、生活介護）、就労継続支援B型

2. 東海特別支援教育カンファレンスの開催（参加者数②⑥67名、②⑦120名）

3. 特別支援学校、特別支援学級の教員向け研修会への講師派遣

4. 対象者別研修（一般：ふれあい講座、専門職：福祉用具別活用講座）

障害分野の支援者向け福祉用具・住宅改修セミナー（②⑧以降順次開催）

5. 自助具の製作・改造

個別ケース以外に、就労継続支援B型、障害者支援施設（入所支援、生活介護）への支援もあり。

支援機器個別相談会



就労場面での用具の製作



水栓の工夫（入所施設）



6. 取組による効果（2）

6. 自助具製作におけるボランティアグループのネットワーク化
（②⑦情報収集→②⑧スキルアップ研修の開催）
7. 市民向け家族・地域介護者教室→地域ニーズに応じた教室の開催
8. 介護ロボットの普及事業として、展示会・研修会の開催、導入ワークショップ実施。
9. 企業等への支援機器、介護ロボット、製品開発の支援、情報共有、意見交換
（開発支援 H26.7～28.6 50社95件、機器デモ ②⑥62件 ②⑦38件）
10. キッズ向けロボットプログラミング講座（参加者 ②⑦41人）

介護ロボット展示会



オアシス21

介護ロボット導入支援ワークショップ



多職種ブレインストーム

ロボットプログラミング
体験型講座

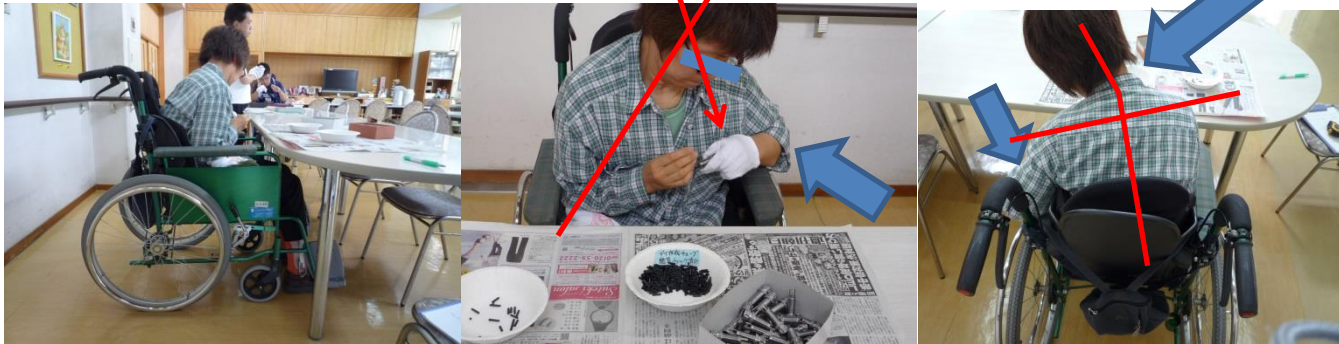


6. 取組による効果（3）事例紹介

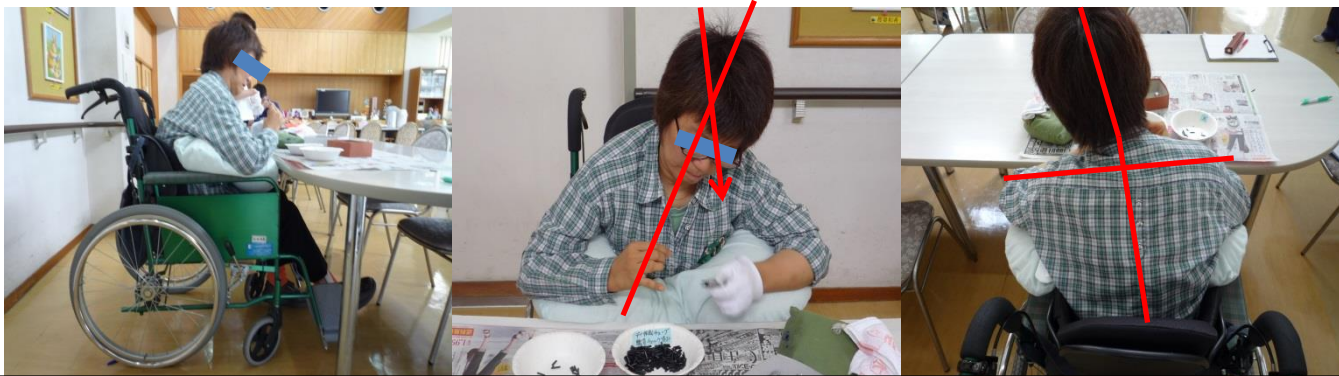
アウトリーチ支援 就労継続支援B型

～作業中の頸部の痛みへの対応・作業環境の見直しから～

グ前
ポジショニング



グ後
ポジショニング

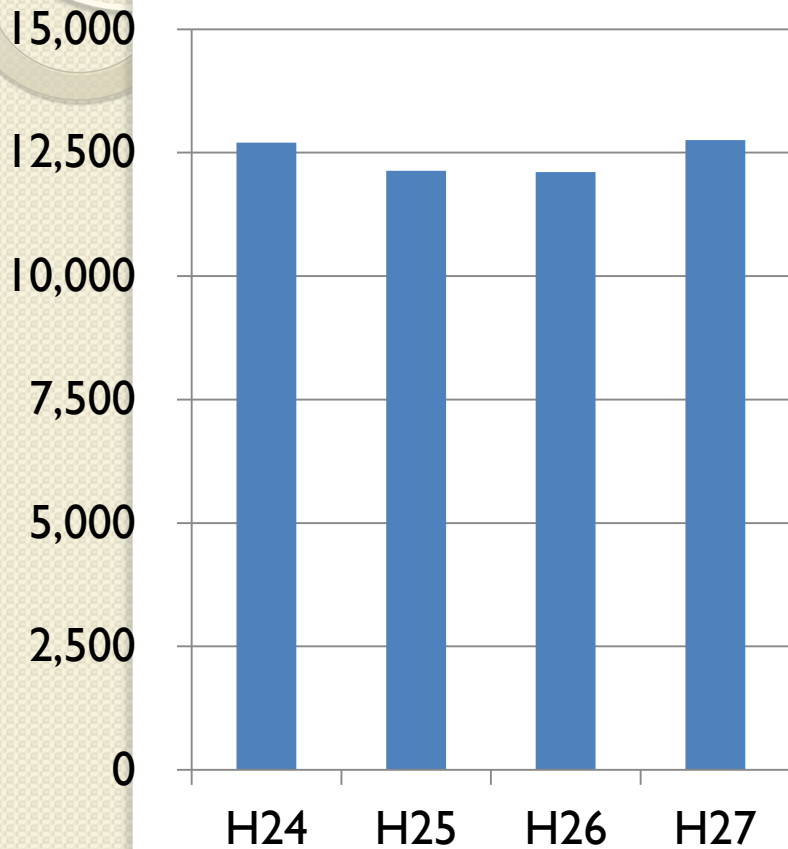


過剰な緊張を緩和し、活動肢位でも活動継続できるようにする。

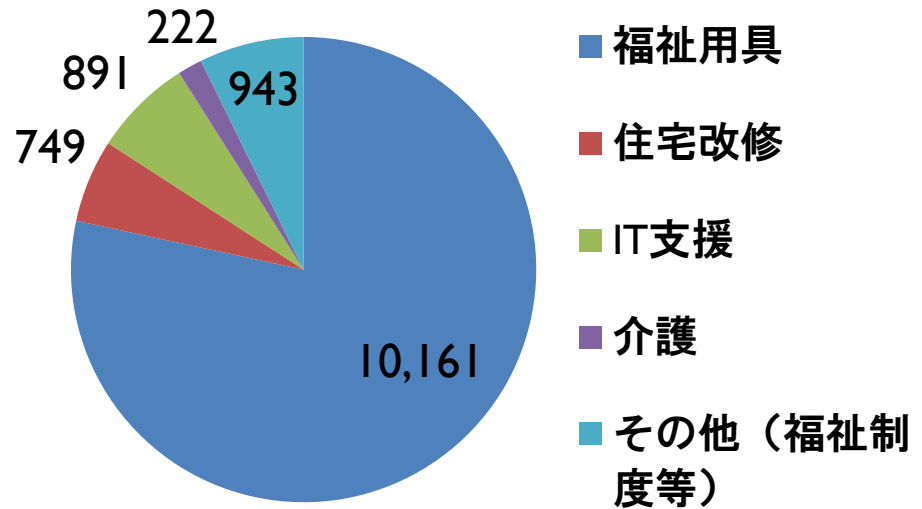
- 座クッションの下部に硬質ボードを敷き、ハンモック現象を防止。姿勢の崩れを予防。
- ブーメラン型ポジショニングクッションを使用。上体を両上肢、脊柱で支持し、上肢への荷重を軽減する。両上肢を高い位置に支持することで脊柱を伸展、体幹の側屈を抑制する。
- 下肢は伸展痙性により足底接地が不十分。フットサポート上とする。

6. 取組による効果（4）

■相談・支援件数の推移



■相談内容（H27年度）

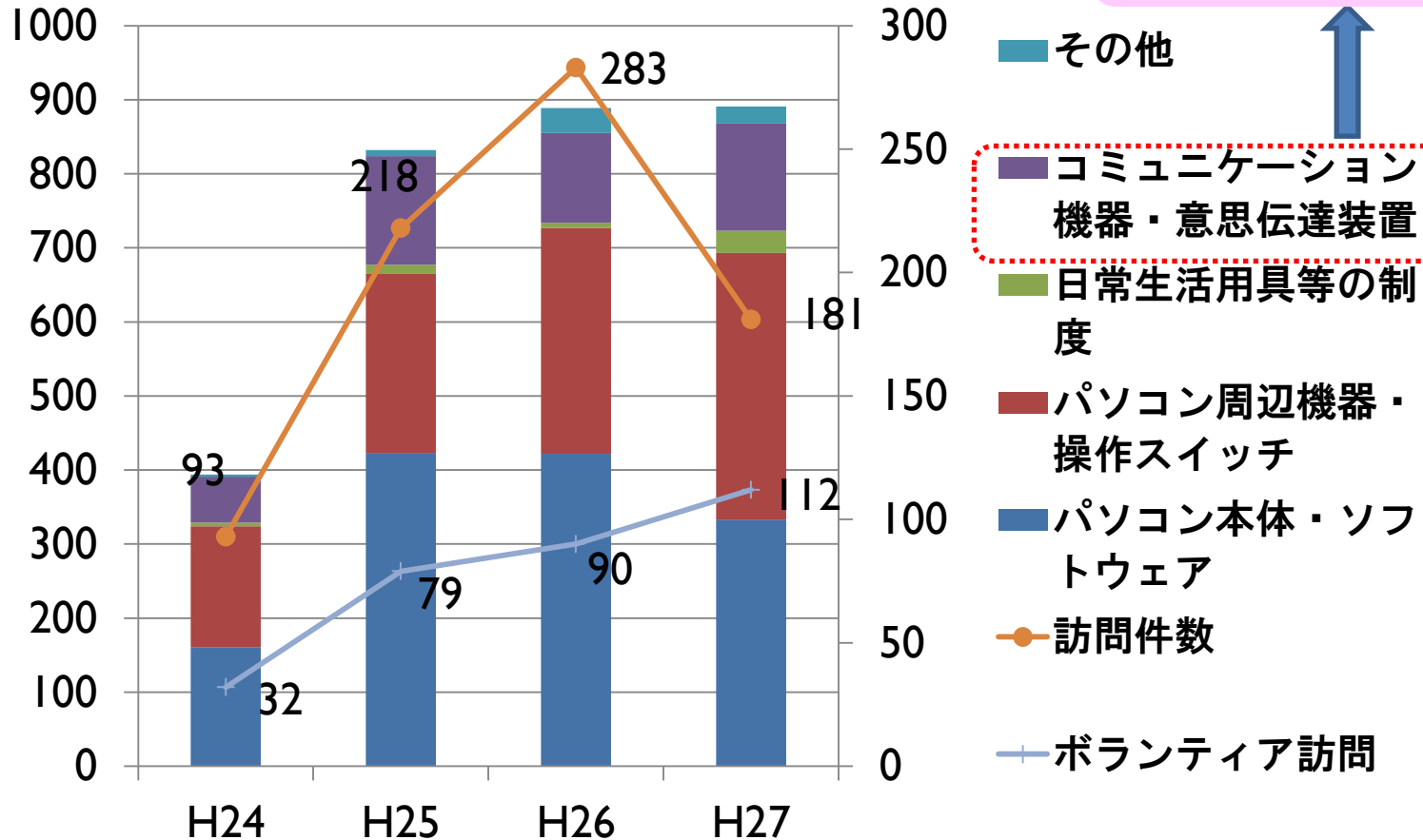


相談・支援件数は、来所・訪問・電話・メールによる相談の他、地域へ出向いて行う教室等においても個別相談の時間を設けているため、その累計である。

相談者は、要支援・要介護認定を受けた方やその家族が来所され、福祉用具や住宅改修の相談、制度の説明をすることが多いが、障害者（高齢障害者を含む）も多く来所され、相談者の半数近くを占めている。

6. 取組による効果（5）

■ IT支援の相談件数の推移



難病（ALS、SMA、筋ジストロフィー等）の方からの相談が多い。

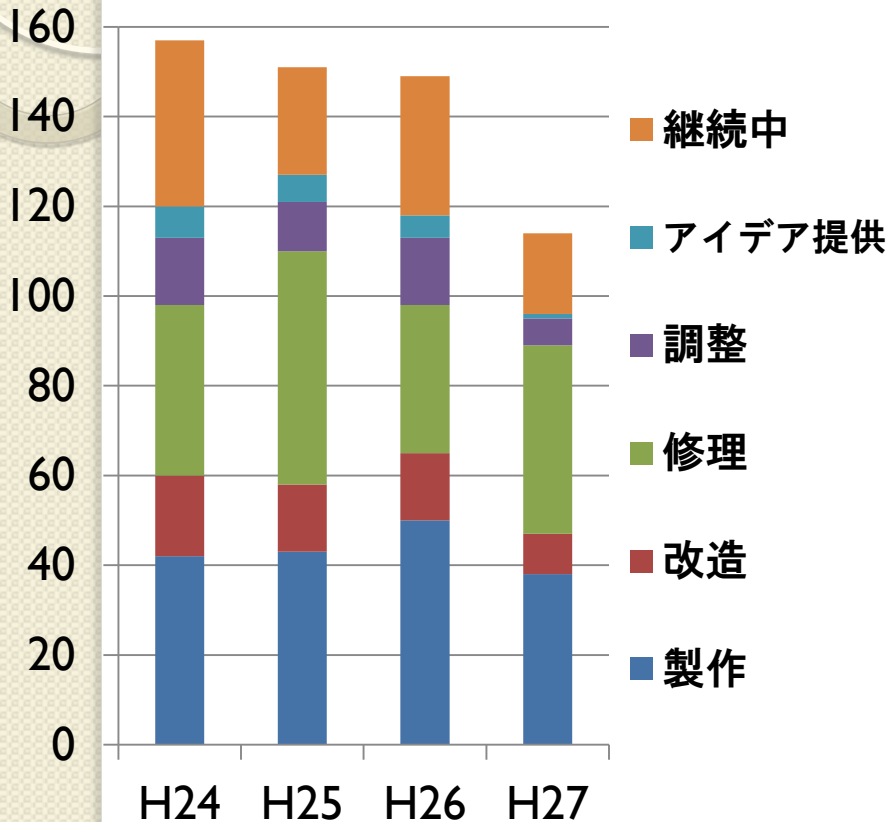


コミュニケーション機器・意思伝達装置

平成25年度にIT相談員を増員したことにより、相談件数は倍増し、その後も800～900件の間で推移している。IT支援は、継続フォローするケースが多く、職員の訪問相談後、技術ボランティアによるアフターフォローを実施。相談内容は、タブレット端末やソフトウェア（アプリケーション含む）、スイッチの相談が多く、視線入力による意思伝達装置の相談も増えてきている。また、訪問相談のみではなく、視覚障害・肢体不自由者のパソコン勉強会も定期的で開催している。

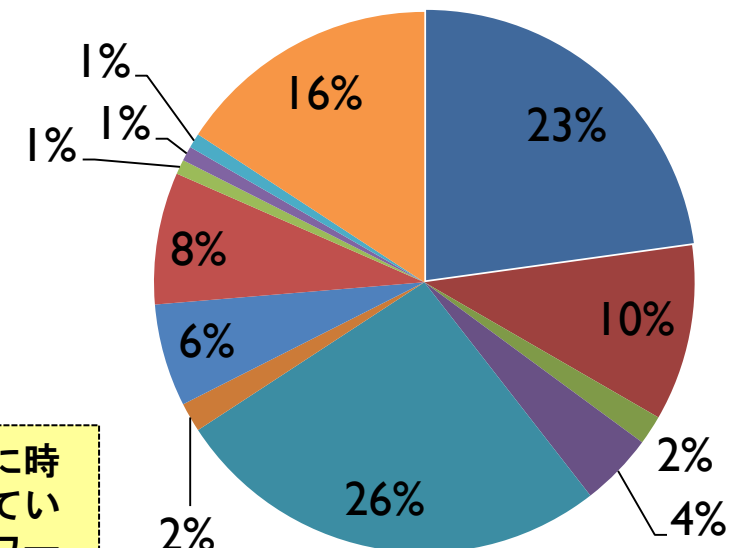
6. 取組による効果（6）

■製作・改造の実施件数



■製作・改造の内容別実施件数 (H27年度)

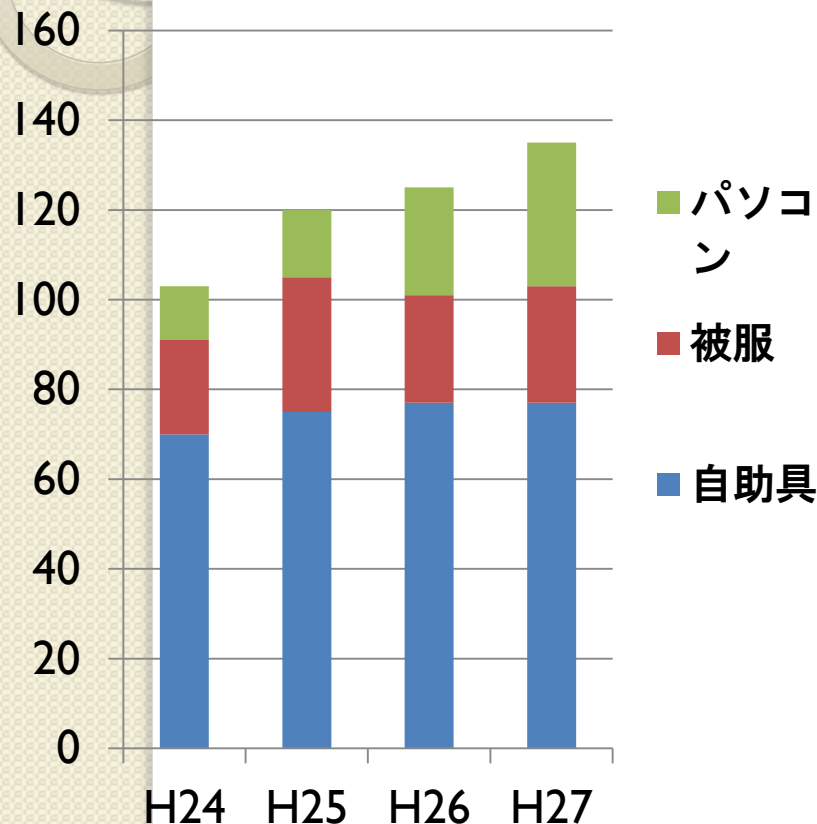
- 歩行支援用具
- ベッド関連用具
- 自助具・衣類
- パソコン関連用具
- 住宅設備いす・机
- その他の用具
- 車いす関連用具
- 入浴関連用具
- 排泄関連用具
- コミュニケーション支援用具
- スポーツ関連用具
- 継続中



相談者は、高齢障害者や障害者が中心であり、製作に時間がかかるケースや障害者施設からの相談も増えてきているため、県内のボランティアグループとの支援ネットワークづくりを進めている。また、IT支援等で訪問した先において、製作・改造の相談につながるケースもある。

6. 取組による効果（7）

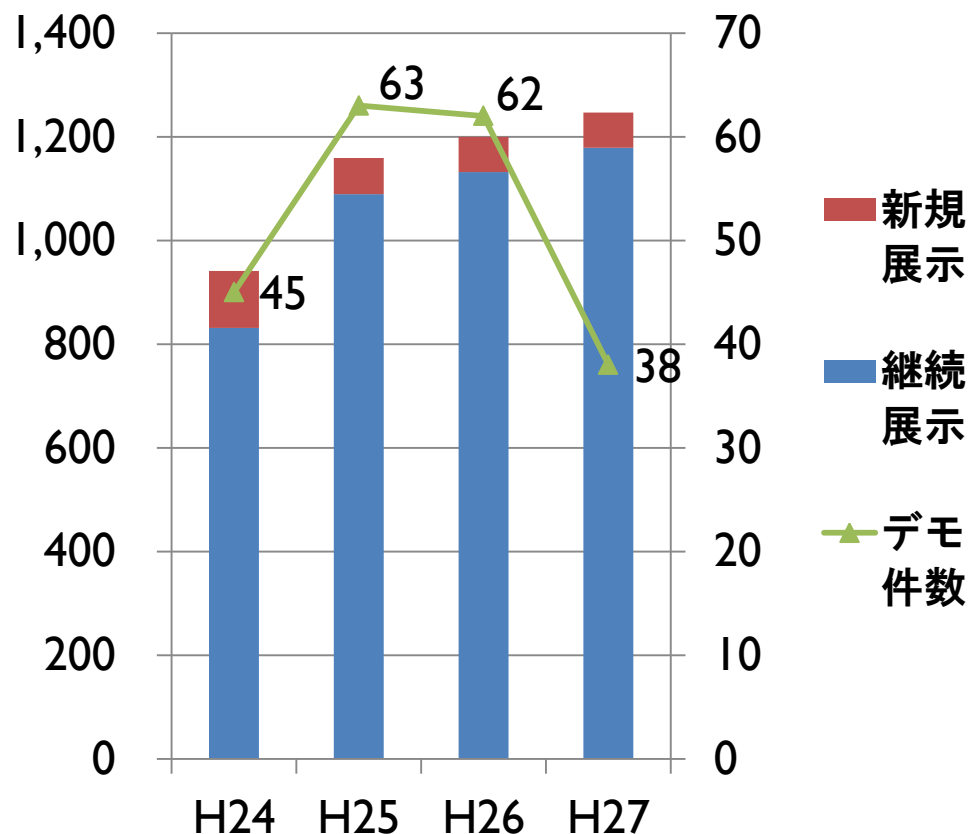
■技術ボランティア活動実績
（自助具・被服・パソコン）



技術ボランティア

自助具・被服・パソコンの3グループがあり、なごや福祉用具プラザと連携し、用具の製作、衣類の改造、パソコン等の導入支援を行っている。

■常設展示品数の推移

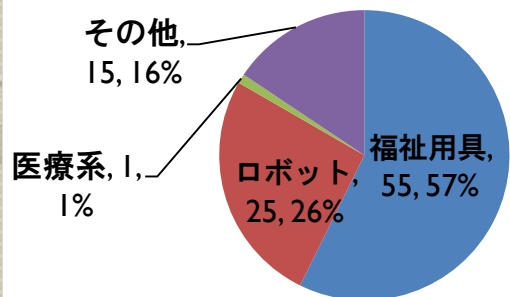


デモ件数

新製品やモデルチェンジをした福祉用具について、なごや福祉用具プラザ職員がメーカー・販売店等から説明を受けた件数。

6. 取組による効果 (8)

■福祉用具・介護ロボット 開発・普及等相談支援 (H26.7~H28.6)

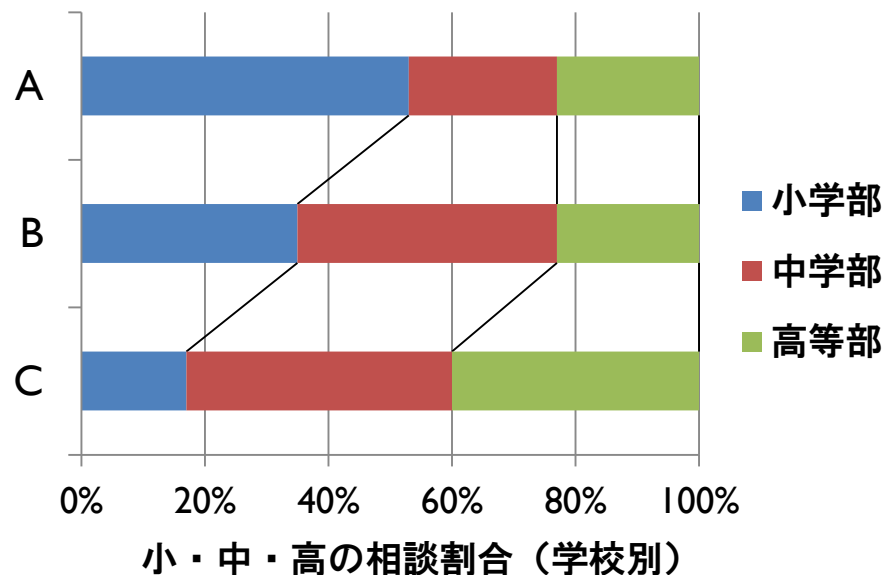


(種別)	全体	開発支援	情報提供	その他相談
移動	12	8	4	
移乗	11	7	4	
排泄	8	7	1	
衣類	7	4	3	
自助具	7	7		
コミュニケーション	6	1	5	
癒し	4	4		
入浴	4	3	1	
聴覚	2	2		
衛生用品	2	1	1	
住宅関連	2		1	1
ベッド	2	2		
見守り	2	2		
医療	1		1	
クッション	1		1	
防災	1	1		
リハビリ	1	1		
マットレス	1	1		
その他	21	5	13	3

(件)

■支援機器個別相談会

学校	開始年度	訪問回数 (/ 年)	のべ相談件数(件)
A	2010	2回/年	43
B	2012	3回/年	47
C	2013	3回/年	18



移動・移乗支援機器など介護負担軽減機器、自助具・コミュニケーションなど自立支援機器の相談が多い。新規企業の相談が多く、増加傾向にある。

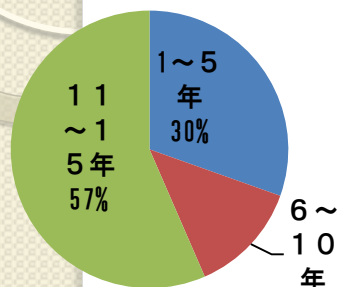
機器の選定・適合・利用方法の相談が多いが、多様なコミュニケーション手段の検討や生活体験を重ねるための工夫など、機器以外の対応も望まれている。

6. 取組による効果（9）

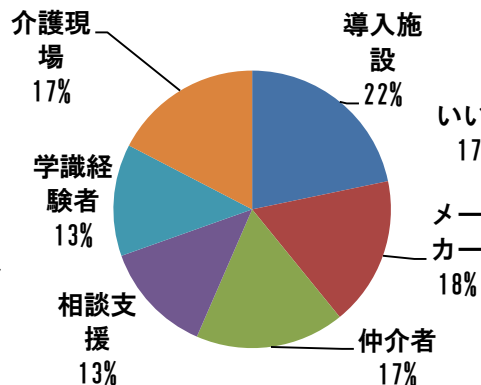
■介護ロボット導入支援ワークショップアンケート結果

介護ロボット導入に
ワークショップは
役に立つか？

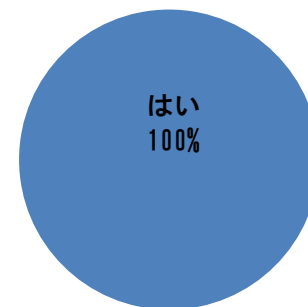
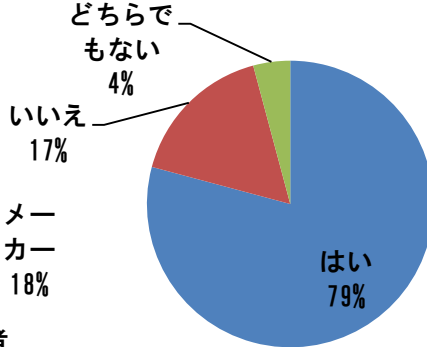
経験年数



参加者属性



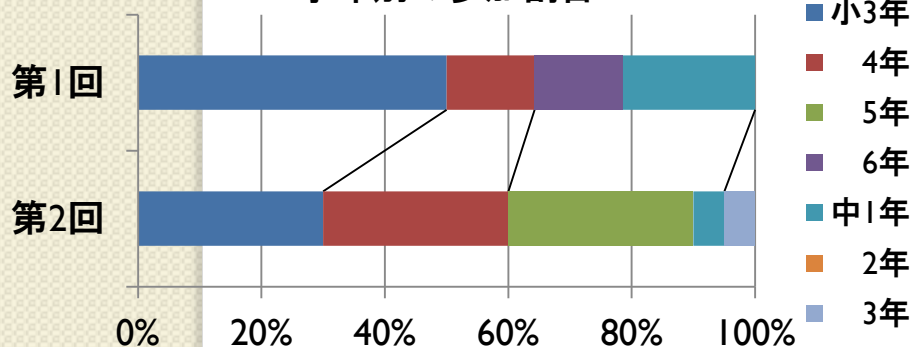
自分の意見を十分言えたか？



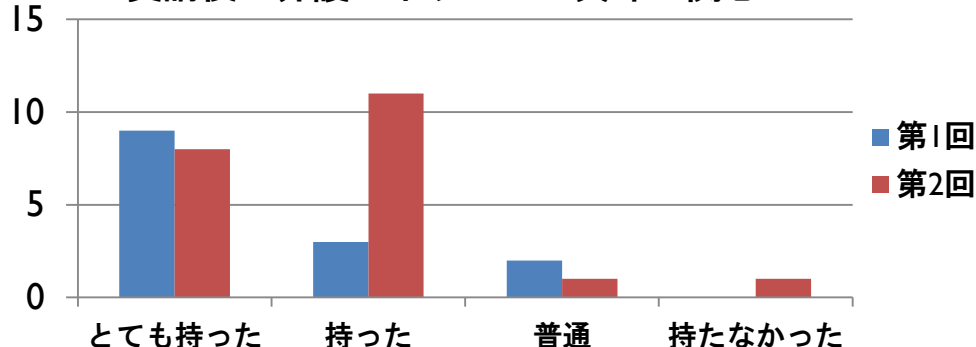
平成25年度より、福祉用具・介護ロボット普及モデル事業を実施し、ワークショップの取り組みは、厚生労働省「介護ロボット重点分野別講師養成テキスト」に反映されるなど、一定の評価を得ている。

■キッズ向けロボットプログラミング講座

学年別の参加割合



受講後の介護ロボットへの興味・関心



早期からロボット技術に親しみ、介護ロボットにも技術が応用されていることを知る取り組み。先進的な視点を養いつつ、介護の課題についても学ぶことで、ロボット技術と介護課題を結び付けて考える展望性のある活動となっている。